



バックアップと復元

- [バックアップと復元について](#) (1 ページ)
- [バックアップと復元のイベント通知](#) (3 ページ)
- [NFS バックアップサーバーの要件](#) (4 ページ)
- [バックアップ物理ディスクの名称](#) (5 ページ)
- [バックアップストレージ要件](#) (5 ページ)
- [バックアップと復元用の物理ディスクの追加](#) (6 ページ)
- [NFS サーバーの追加](#) (9 ページ)
- [バックアップファイルを保存する場所の設定](#) (10 ページ)
- [バックアップの作成](#) (12 ページ)
- [バックアップからデータを復元](#) (13 ページ)
- [障害が発生した仮想アプライアンスの物理ディスクからのデータの復元](#) (16 ページ)
- [障害が発生した仮想アプライアンスの NFS サーバーからのデータの復元](#) (22 ページ)
- [データのバックアップスケジュール](#) (24 ページ)

バックアップと復元について

バックアップおよび復元機能を使用して、バックアップファイルを作成し、同じ仮想アプライアンスまたは別の仮想アプライアンスに復元できます（ネットワーク構成に必要な場合）。

自動化とアシュアランスデータは、単一のデータストレージデバイスを使用するように統合されます。データは、仮想マシンに接続されている物理ディスクまたはリモートのネットワークファイルシステム（NFS）サーバーに保存できます。

Backup

自動化データとアシュアランスデータの両方をバックアップできます。

自動化データは、Cisco DNA Center データベース、クレデンシャル、ファイルシステム、およびファイルで構成されています。自動化バックアップは常に完全バックアップです。

アシュアランスデータは、ネットワークアシュアランスと分析データで構成されています。アシュアランスデータの最初のバックアップは完全バックアップで、その後は増分バックアップです。



- (注) バックアップファイルは変更しないでください。変更すると、バックアップファイルを Cisco DNA Center に復元できない場合があります。

Cisco DNA Center はバックアップファイルを作成して、物理ディスクまたは NFS サーバーにポストします。

バックアップ用に複数の物理ディスクを追加できます。以前のバックアップディスクのディスク容量が不足している場合は、他の追加されたディスクをバックアップに使用できます。物理ディスクの追加方法については、「[バックアップと復元用の物理ディスクの追加 \(6 ページ\)](#)」を参照してください。新しいディスクをバックアップの場所として使用するには、**[System] > [Settings] > [Backup Configuration]** ウィンドウでディスクを変更し、変更を保存する必要があります。物理ディスクの変更方法については、「[バックアップファイルを保存する場所の設定 \(10 ページ\)](#)」を参照してください。

複数の NFS サーバーをバックアップ用に追加することもできます。NFS サーバーの追加方法については、「[NFS サーバーの追加 \(9 ページ\)](#)」を参照してください。新しい NFS サーバーをバックアップの場所として使用するには、**[System] > [Settings] > [Backup Configuration]** ウィンドウで NFS サーバーを変更し、変更を保存する必要があります。NFS サーバーの変更方法については、「[バックアップファイルを保存する場所の設定 \(10 ページ\)](#)」を参照してください。



- (注) 一度に1つのバックアップのみ実行できます。一度に複数のバックアップを実行することはできません。

バックアップの実行中は、バックアップサーバーにアップロードされたファイルを削除することはできず、ファイルに加えた変更はバックアッププロセスによってキャプチャされないことがあります。

次の点を推奨します。

- データベースとファイルの現在のバージョンを維持するために毎日バックアップを実行する。
- 設定に変更を加えた後はバックアップを実行する（デバイスで新しいポリシーを作成または変更した場合など）。
- バックアップは影響の少ない時間帯かメンテナンス時間にのみ実行する。

週の特定期の時刻に週単位のバックアップをスケジュールできます。

Restore

Cisco DNA Center を使用して物理ディスクまたは NFS サーバーからバックアップファイルを復元できます。

ESXi 上の Cisco DNA Center はバージョン間のバックアップと復元をサポートします。つまり、ESXi 上の Cisco DNA Center の 1 つのバージョンでバックアップを作成し、ESXi 上の Cisco DNA Center の別のバージョンに復元できます。現在、ESXi 上の Cisco DNA Center のバージョン 2.3.7.0-75530 のバックアップは、ESXi 上の Cisco DNA Center のバージョン 2.3.7.3-75176 に復元できます。



- (注) 仮想マシンで作成されたバックアップは、同じまたはそれ以降のソフトウェアバージョンの仮想マシンでのみ復元できます。

バックアップファイルを復元すると、Cisco DNA Center によって既存のデータベースとファイルが削除され、バックアップデータベースとファイルで置き換えられます。復元を実行している間、Cisco DNA Center は使用できません。

故障または障害が発生した仮想アプライアンスのバックアップファイルを復元できます。詳細については、[障害が発生した仮想アプライアンスの物理ディスクからのデータの復元 \(16 ページ\)](#) および [障害が発生した仮想アプライアンスの NFS サーバーからのデータの復元 \(22 ページ\)](#) を参照してください。

バックアップは、別の IP アドレスを持つ Cisco DNA Center アプライアンスに復元することもできます。



- (注) Cisco DNA Center のバックアップおよび復元後、[Integration Settings] ウィンドウにアクセスし、(必要に応じて) [Callback URL Host Name] または [IP Address] を更新する必要があります。

バックアップと復元のイベント通知

バックアップまたは復元イベントが発生するたびに通知を受信できます。これらの通知を設定およびサブスクライブするには、『[Cisco DNA Center Platform User Guide](#)』の「Work with Event Notifications」トピックで説明されている手順を実行してください。この手順を完了したら、[SYSTEM-BACKUP] イベントと [SYSTEM-RESTORE] イベントを選択し、サブスクライブしていることを確認します。

動作	イベント
バックアップ	システムのバックアップファイルを作成するプロセスが開始された。
	システムのバックアップファイルを作成できなかった。 <ul style="list-style-type: none"> このイベントは通常、必要なディスク容量がリモートストレージにないために発生します。 システムでバックアップファイルを作成中に、接続の問題や遅延が発生しました。

動作	イベント
復元	バックアップファイルを復元するプロセスが開始された。
	バックアップファイルの復元に失敗した。 <ul style="list-style-type: none"> このイベントは通常、バックアップファイルが破損しているために発生します。 システムでバックアップファイルを作成中に、接続の問題や遅延が発生しました。

NFS バックアップサーバーの要件

NFS サーバーのデータバックアップをサポートするには、サーバーが次の要件を満たす Linux ベースの NFS サーバーである必要があります。

- NFS v4 および NFS v3 をサポートしている（このサポートを確認するには、サーバーから **nfsstat -s** を入力します）。
- NFS エクスポートディレクトリに対する読み取り/書き込み権限がある。
- ESXi 上の Cisco DNA Center と NFS サーバー間のネットワーク接続が安定している。
- ESXi 上の Cisco DNA Center と NFS サーバー間のネットワーク速度が十分速い。



(注) NFS 搭載ディレクトリを ESXi 上の Cisco DNA Center のバックアップ サーバー ディレクトリとして使用することはできません。カスケードされた NFS マウントは遅延の層が増えるため、サポートされません。

複数の ESXi 上の Cisco DNA Center を展開するための要件

ネットワークに複数の Cisco DNA Center クラスタが含まれている場合、次の設定例は、NFS サーバーのバックアップディレクトリ構造に名前を付ける方法を示しています。

リソース	設定例
ESXi 上の Cisco DNA Center クラスタ	<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>cluster1</i> 2. <i>cluster2</i>
自動化と アシユアランス のバックアップをホストするバックアップサーバー	例示したディレクトリは /data/ で、両方のタイプのバックアップをホストする十分なスペースがあります。
NFS エクスポート設定	/etc/exports ファイルの内容 : <pre> /data/cluster1 *(rw, sync, no_subtree_check, all_squash) /data/cluster2 *(rw, sync, no_subtree_check, all_squash) </pre>

バックアップ物理ディスクの名称

バックアップに物理ディスクを使用するには、仮想マシンに物理ディスクを追加する必要があります。バックアップ用の物理ディスクを容易に識別するために、UUID が使用されます。

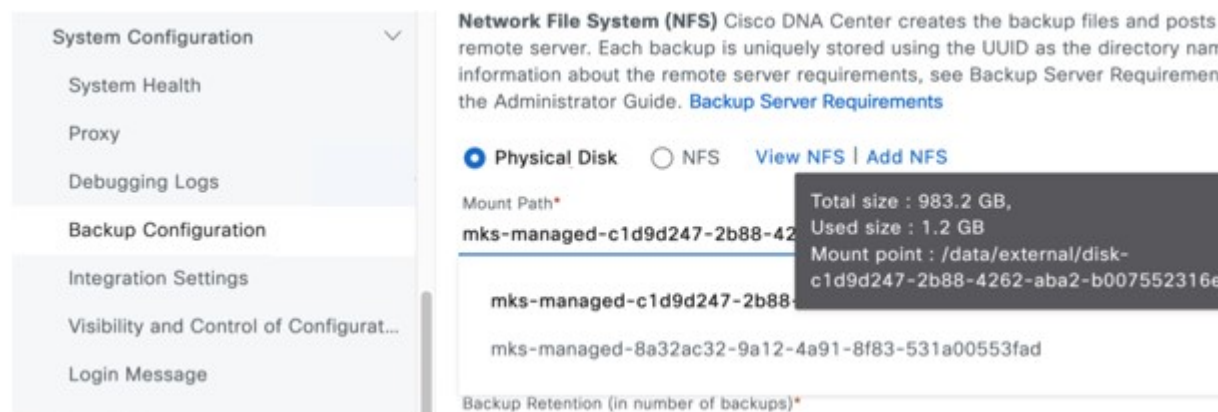
UUID は、ディスクに関連付けられている一意の識別子であり、再起動しても変更されません。削除されて別のクラスタに追加されたディスクは、再度フォーマットされない限り、同じ UUID を持ちます。

ディスクは `mks-managed` として明示的にラベル付けされます。

バックアップに使用可能な物理ディスクは、**[System] > [Settings] > [Backup Configuration]** ウィンドウの **[Mount Path]** ドロップダウンリストで確認できます。

[i] アイコンにマウスのカーソルを合わせると、その物理ディスクの名称が次の形式で表示されます。

`/data/external/disk-<uuid>`



バックアップストレージ要件

ESXi 上の Cisco DNA Center は、アシュアランスのバックアップコピーと自動化データを、仮想マシンまたはリモート NFS サーバーに接続されている物理ディスクに保存します。バックアップには、必要な保存期間をカバーするのに十分な外部ストレージを割り当てる必要があります。次のストレージを推奨します。

仮想アプライアンス	アシュアランスデータストレージ (14日単位で増分)	自動化データストレージ (日次でフル)	物理ディスク/NFSサーバー (アシュアランスおよび自動化) ストレージ
DN-SW-APL	1.75 TB	50 GB	1.75 TB + 50 GB

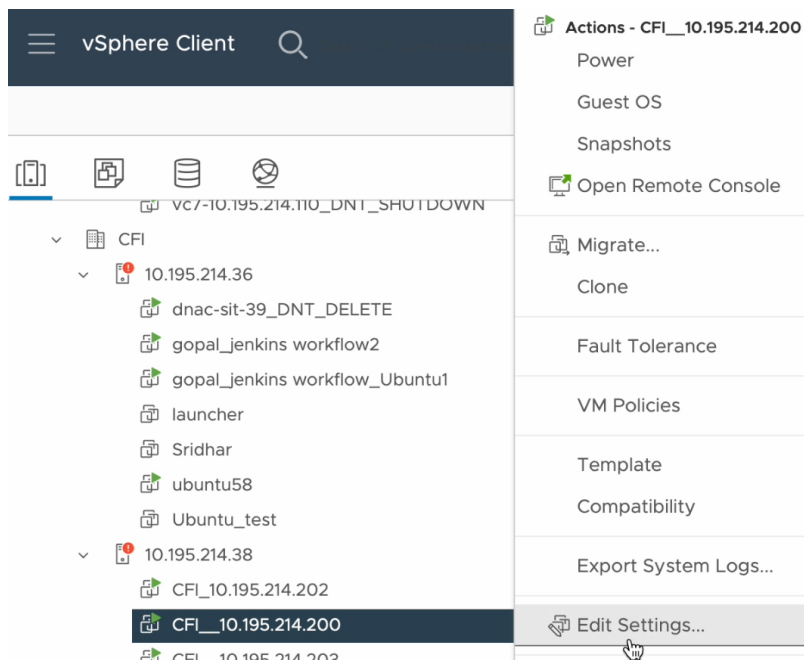
補足事項：

- 上記の表は、各アプライアンスのアクセスポイントとネットワークデバイスの最大数をサポートする、フル装備の仮想アプライアンス構成を前提としています。
- 自動バックアップの量は、1日1回のバックアップで見積もられます。バックアップを保持する日数を追加する場合は、必要なストレージ容量 x 追加する日数で算出します。たとえば、DN-SW-APL 仮想アプライアンスがあり、1日1回生成される自動化データバックアップのコピーを5つ保存する場合、必要なストレージの合計は $5 \times 50 \text{ GB} = 250 \text{ GB}$ です。
- バックアップ時間の合計は、毎日のデータロードと保持する履歴データの量によって異なります。
- Cisco DNA Center への書き込みパスは、Cisco DNA Center から NFS サーバーへのネットワークスループットによって異なります。NFSサーバーのスループットは、少なくとも 100 MB/秒である必要があります。
- 他のITサービスと同様に、最適なパフォーマンスを確保するには、NFSのパフォーマンスをモニタリングする必要があります。

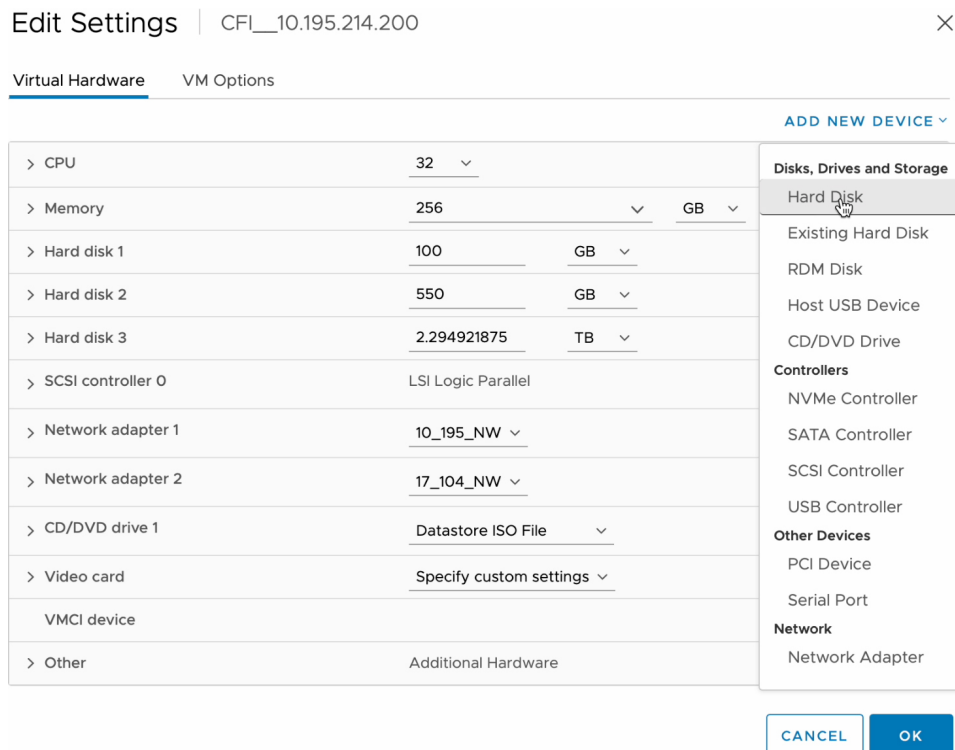
バックアップと復元用の物理ディスクの追加

バックアップと復元操作に使用できる物理ディスクを追加するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** ESXi 上の Cisco DNA Center をホストしているマシンでアプライアンスが実行されている場合は、アプライアンスの仮想マシンの電源をオフにします。
 - ステップ 2** VMware vSphere にログインします。
 - ステップ 3** vSphere クライアントの左側のペインで、ESXi ホストを右クリックし、[Edit Settings] を選択します。



ステップ 4 [Edit Settings] ダイアログボックスで [Add New Device] をクリックし、[Hard Disk] を選択します。



ステップ 5 [New Hard disk] フィールドに、目的のストレージサイズを入力します。

Edit Settings | CFI_10.195.214.200

Virtual Hardware | VM Options

ADD NEW DEVICE

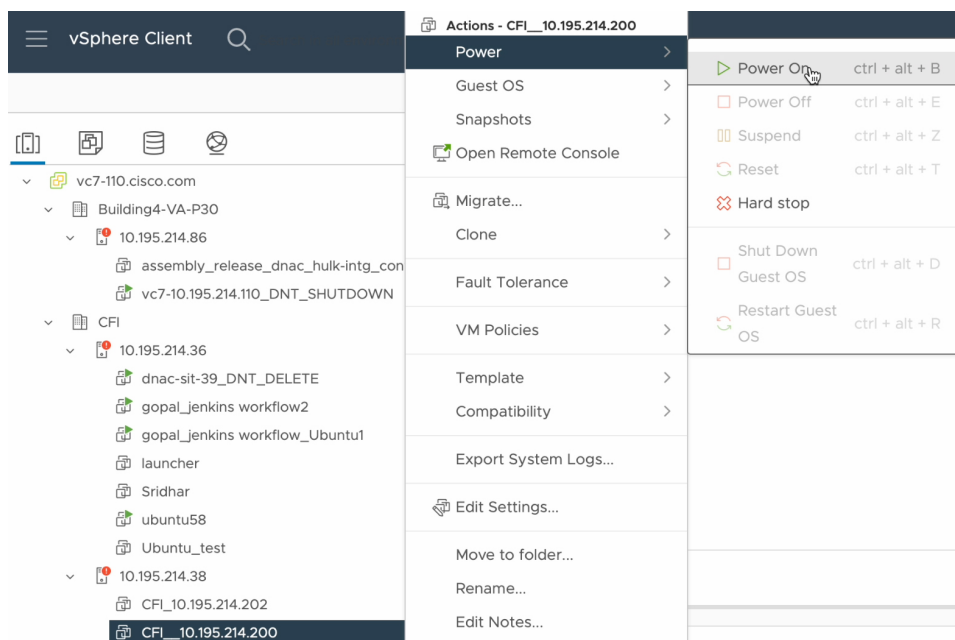
> CPU	32	▼			
> Memory	256	▼	GB	▼	
> Hard disk 1	100		GB	▼	
> Hard disk 2	550		GB	▼	
> Hard disk 3	2.294921875		TB	▼	
> New Hard disk *	125		GB	▼	
> SCSI controller 0	LSI Logic Parallel				
> Network adapter 1	10_195_NW	▼			<input checked="" type="checkbox"/> Connect...
> Network adapter 2	17_104_NW	▼			<input checked="" type="checkbox"/> Connect...
> CD/DVD drive 1	Datastore ISO File	▼			<input checked="" type="checkbox"/> Connect...
> Video card	Specify custom settings ▼				
VMCI device					
> Other	Additional Hardware				

CANCEL OK

(注) バックアップに推奨されるストレージ容量の詳細については、「[バックアップストレージ要件 \(5 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

ステップ 7 アプライアンスの仮想マシンの電源をオンにします。



次のタスク

追加した物理ディスクをバックアップ用に設定できます。物理ディスクの設定方法については、「[バックアップファイルを保存する場所の設定（10 ページ）](#)」を参照してください。

NFS サーバーの追加

Cisco DNA Center では、バックアップ用に複数の NFS サーバーを追加できます。バックアップ操作に使用できる NFS サーバーを追加するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして、**[System] > [Settings] > [Backup Configuration]** の順に選択します。
- ステップ 2 **[Add NFS]** リンクをクリックします。
- ステップ 3 **[Add NFS slide-in pane]** で次の手順を実行します。
 - a) それぞれのフィールドに **[Server Host]** と **[Source Path]** を入力します。
 - b) ドロップダウンリストから **[NFS Version]** を選択します。
 - c) **[Port]** はデフォルトで追加されます。このフィールドは空のままにもできます。
 - d) **[Port Mapper]** 番号を入力します。
 - e) **[Save]** をクリックします。
- ステップ 4 **[View NFS]** をクリックして、使用可能な NFS サーバーを表示します。**[NFS slide-in pane]** には、NFS サーバーのリストが詳細とともに表示されます。
- ステップ 5 **[NFS slide-in pane]** で **[Actions]** の下にある省略記号をクリックして、NFS サーバーを削除します。

(注) 進行中のバックアップジョブがない場合にのみ、NFS サーバーを削除できます。

次のタスク

バックアップ用に追加した NFS サーバーを設定します。詳細については、[バックアップファイルを保存する場所の設定 \(10 ページ\)](#) を参照してください。

バックアップファイルを保存する場所の設定

Cisco DNA Center では、自動化と アシユアランス データのバックアップを設定できます。

バックアップファイルの保存場所を設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- SUPER-ADMIN-ROLE 権限を持つユーザのみがこの手順を実行することができます。
- データバックアップサーバーが[NFS バックアップサーバーの要件 \(4 ページ\)](#) で説明されている要件を満たしている。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして、**[System] > [Settings] > [System Configuration] > [Backup Configuration]** の順に選択します。

物理ディスクまたは NFS サーバーをバックアップの場所として選択できます。

Settings / System Configuration

Backup Configuration

Physical Disk Cisco DNA Center Virtual Appliance provides an option to mount an external disk to the Virtual Machine for Assurance and Automation backups. Note: Physical Disk option is only supported for single node Virtual Machines.

Network File System (NFS) Cisco DNA Center creates the backup files and posts them to a remote server. Each backup is uniquely stored using the UUID as the directory name. For information about the remote server requirements, see Backup Server Requirements listed in the Administrator Guide. [Backup Server Requirements](#)

Physical Disk NFS [View](#) | [Add](#)

Mount Path*

mks-managed-bdc9abf9-59a6-4d8e-ba69-b70284d31a04



Encryption passphrase*

.....

[SHOW](#)

Encryption passphrase not available

Backup Retention (in number of backups)*

14

[Info](#)

ステップ 2 [Physical Disk] : Cisco DNA Center は、アシュアランスのバックアップコピーと自動化データを保存するため、外部ディスクを仮想マシンにマウントするオプションを提供します。物理ディスクを設定するには、[Physical Disk] ラジオボタンをクリックし、次の設定を定義します。

(注) 物理ディスクオプションは、単一ノード仮想マシンでのみサポートされます。

フィールド	説明
マウントパス	外部ディスクの場所。
Encryption Passphrase	バックアップのセキュリティの影響を受けやすいコンポーネントを暗号化するために使用するパスワード。これらのセキュリティに影響を受けやすいコンポーネントには、証明書とクレデンシャルが含まれます。 このパスワードは必須で、バックアップファイルを復元するときに入力を求められます。このパスワードがなければ、バックアップファイルは復元されません。
バックアップの保持	データを保持するバックアップ数。 指定したバックアップ数より古いデータは削除されます。

ステップ 3 [NFS] : Cisco DNA Center はバックアップファイルを作成して、リモート NFS サーバーにポストします。リモートサーバーの要件の詳細については、[NFS バックアップサーバーの要件 \(4 ページ\)](#) を参照して

ください。NFS バックアップサーバーを設定するには、[NFS] ラジオボタンをクリックして次の設定を定義します。

フィールド	説明
マウントパス	リモートサーバーの場所。
Encryption Passphrase	バックアップのセキュリティの影響を受けやすいコンポーネントを暗号化するために使用するパスフレーズ。これらのセキュリティに影響を受けやすいコンポーネントには、証明書とクレデンシャルが含まれます。 このパスフレーズは必須で、バックアップファイルを復元するときに入力を求められます。このパスフレーズがなければ、バックアップファイルは復元されません。
バックアップの保持	データを保持するバックアップ数。 指定したバックアップ数より古いデータは削除されます。

ステップ 4 [Submit] をクリックします。

要求が送信されると、[System] > [Backup & Restore] で、設定された物理ディスクまたは NFS サーバーを表示できます。

バックアップの作成

仮想アプライアンスのバックアップを作成するには、次の手順を使用します。

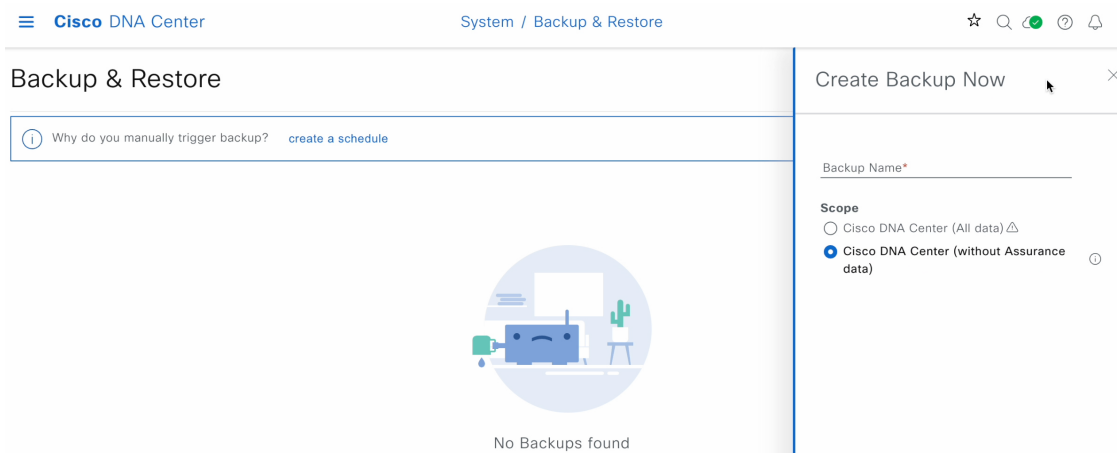
始める前に

バックアップの場所を設定する必要があります。詳細については、[バックアップファイルを保存する場所の設定 \(10 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 ESXi 上の Cisco DNA Center メニューから [System] > [Backup & Restore] を選択します。

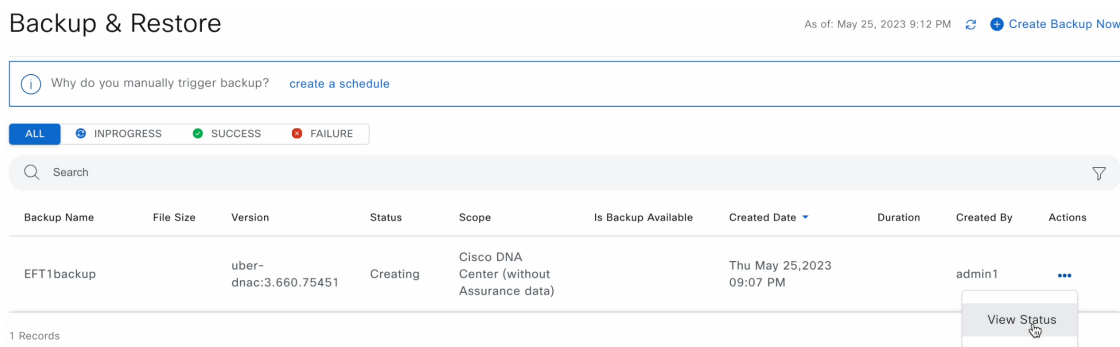
ステップ 2 [Create Backup Now] をクリックします。

[Create Backup Now] スライドインペインが表示されます。



ステップ3 バックアップの一意の名前を入力し、[Save] をクリックします。

ESXi 上の Cisco DNA Center がバックアッププロセスを開始します。バックアップのエントリが [Backup & Restore] ウィンドウのテーブルに追加されます。バックアップのステータスに関する詳細を表示するには、省略記号をクリックし、[View Status] を選択します。



バックアップが完了すると、ステータスが [Creating] から [Success] に変わります。

バックアップからデータを復元

仮想アプライアンスからバックアップデータを復元するには、この手順を使用します。故障または障害が発生した仮想アプライアンスからバックアップファイルを復元する場合は、[障害が発生した仮想アプライアンスの物理ディスクからのデータの復元 \(16 ページ\)](#) を参照してください。



注意 Cisco DNA Center の復元プロセスでは、データベースとファイルのみ復元します。復元プロセスでは、ネットワークの状態や、最後のバックアップ以降に加えられた変更は復元されません。これには、新しいネットワークポリシーやパスワード、証明書、トラストプールバンドル、または更新されたこれらのものが含まれます。

始める前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- SUPER-ADMIN-ROLE 権限を持つユーザのみがこの手順を実行することができます。
- データを復元する元となるバックアップがあること。

データを復元する場合、ESXi 上の Cisco DNA Center はメンテナンスモードに入り、復元プロセスが終わるまで使用できません。ESXi 上の Cisco DNA Center を使用不可にできるときにデータを復元してください。

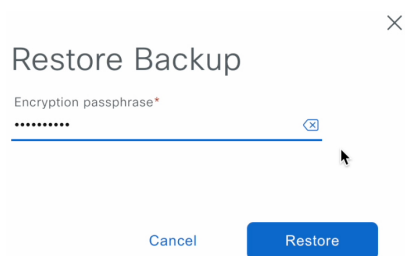
ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして、**[System] > [Backup & Restore]** の順に選択します。作成したバックアップは、**[Backup & Restore]** ウィンドウに表示されます。

ステップ 2 **[Backup Name]** 列で、復元するバックアップを特定します。

ステップ 3 **[Actions]** 列で、省略記号をクリックし、**[Restore]** を選択します。

The screenshot displays the 'Backup & Restore' page in Cisco DNA Center. At the top, there are navigation tabs for 'System / Backup & Restore' and a search bar. Below this, a summary box shows backup statistics: 1 Success, 0 Failed, 0 In progress, 122 GB Available, 63 MB Used, 0 Backups, and 0 Estimated for the next 7 days. A search bar and filter tabs (ALL, INPROGRESS, SUCCESS, FAILURE) are present. The main table lists backup records with columns: Backup Name, File Size, Version, Status, Scope, Is Compatible, Created Date, Duration, Created By, and Actions. One record, 'EFT1backup', is shown with a status of 'Success'. A context menu is open over the 'Actions' column for this record, showing options for 'View Status', 'Restore', and 'Delete'.

ステップ 4 **[Restore Backup]** ダイアログボックスで、バックアップ場所の設定時に使用した暗号化パスフレーズを入力し、**[Restore]** をクリックします。

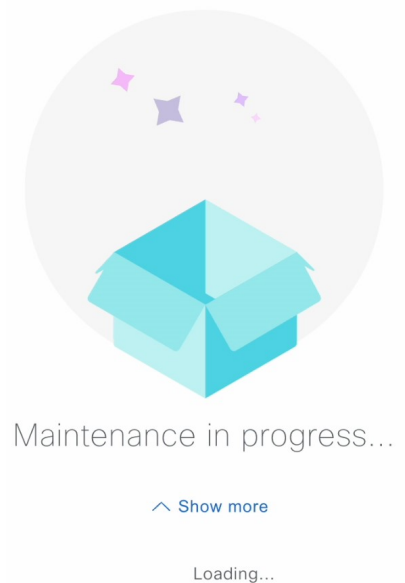


Restore Backup

Encryption passphrase*
.....

Cancel Restore

アプライアンスがメンテナンスモードになり、復元プロセスを開始します。



復元操作が完了すると、[Backup & Restore] ウィンドウのテーブルのステータスが [Success] に変更されます。

ステップ 5 復元操作が完了したら、[Log In] をクリックして ESXi 上の Cisco DNA Center に再度ログインします。

Welcome back.



ステップ 6 管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力して、[Login] をクリックします。

Username
admin1

Password
.....| [SHOW](#)

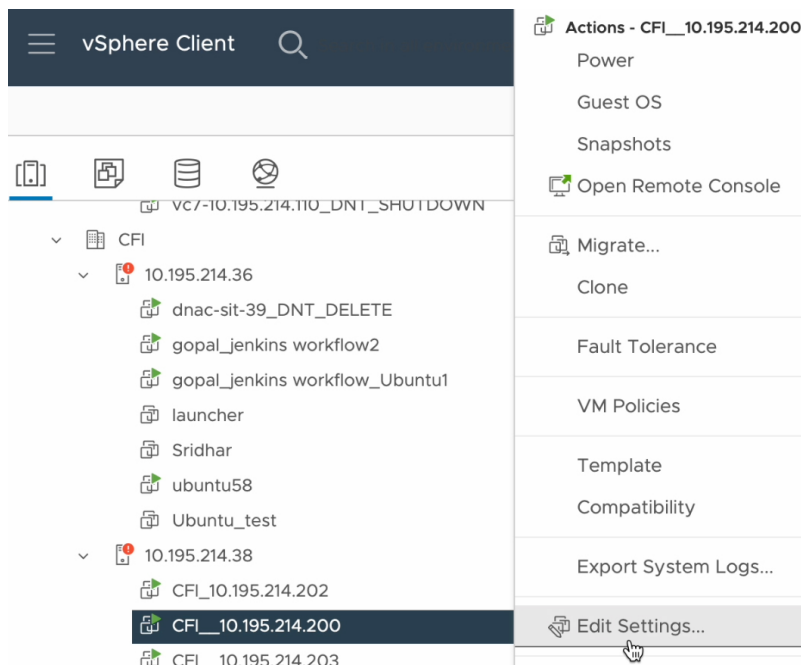
Login

障害が発生した仮想アプライアンスの物理ディスクからのデータの復元

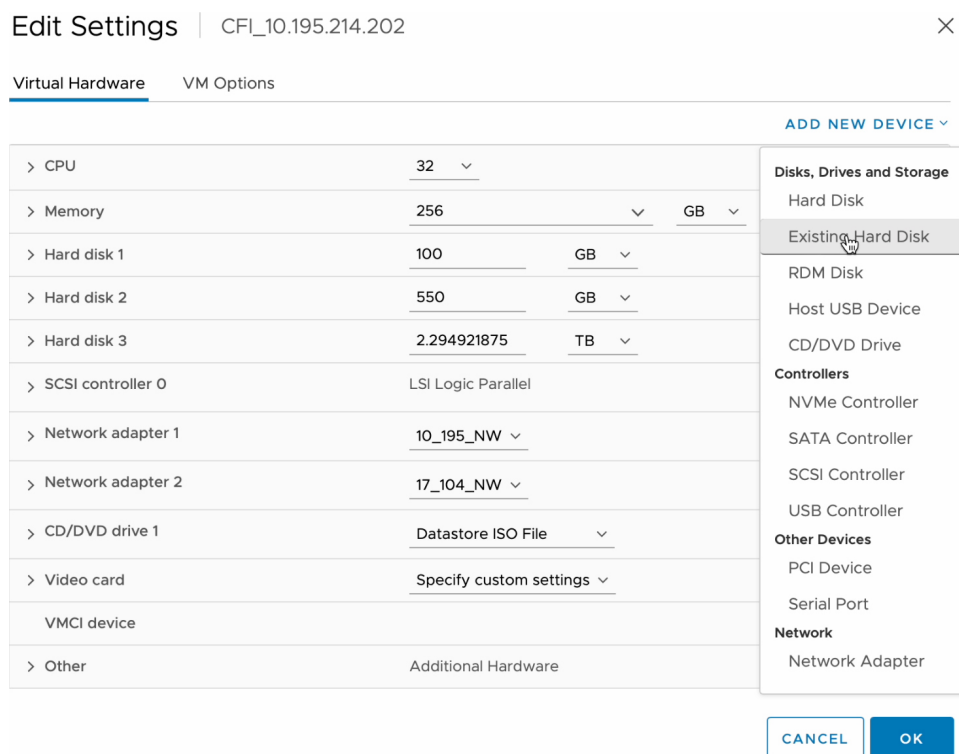
故障または障害が発生した仮想アプライアンスの物理ディスクからデータを復元するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 新しい仮想アプライアンスで、障害のある仮想アプライアンス用に設定したストレージディスクを使用するように ESXi 上の Cisco DNA Center を設定するには、次の手順を実行します。

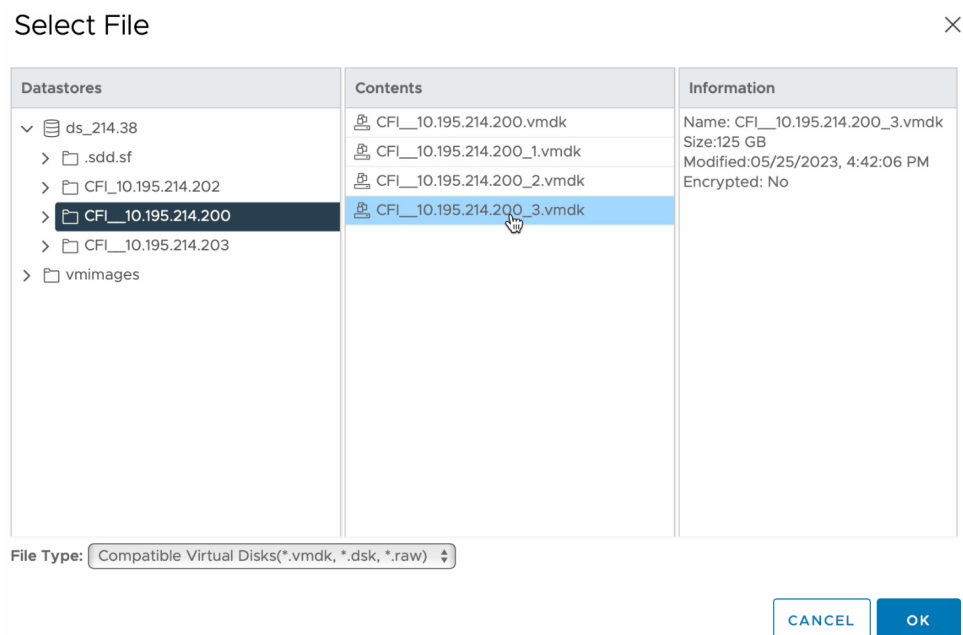
1. アプライアンスの仮想マシンの電源をオフにします。
2. vSphere Client を開き、左ペインの ESXi 上の Cisco DNA Center 仮想マシンを右クリックして [Edit Settings] を選択します。



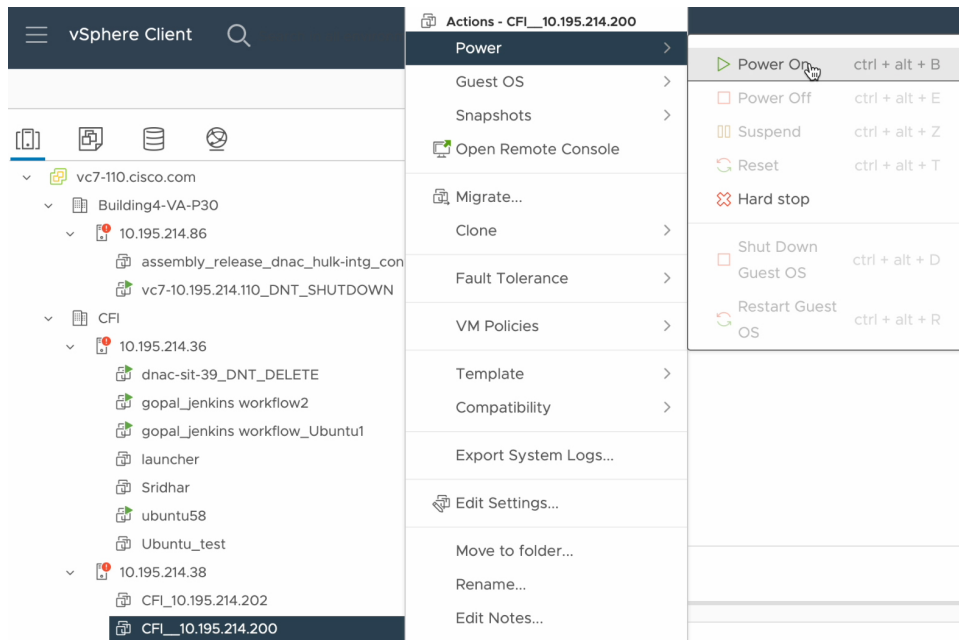
3. [Edit Settings] ダイアログボックスで [Add New Device] をクリックし、[Existing Hard Disk] を選択します。



4. [Select File] ダイアログボックスで ESXi ホストをクリックし、作成したストレージディスク (.vmdk) をクリックして [OK] を選択します。



5. アプライアンスの仮想マシンの電源をオンにします。



すべてのサーバーが再起動するには約 45 分かかります。

(注) 仮想マシンが復旧したら、**magctl appstack status** コマンドを実行してサービスが実行されていることを確認します。

ステップ 2 バックアップの保存場所を設定するには、次の手順を実行します。

- ESXi 上の Cisco DNA Center メニューから、**[System] > [Settings] > [System Configuration] > [Backup Configuration]** の順に選択します。
- [Physical Disk]** ラジオボタンをクリックします。
- [Mount Path]** ドロップダウンリストから物理ディスクを選択します。

Settings / System Configuration

Backup Configuration

Physical Disk Cisco DNA Center Virtual Appliance provides an option to mount an external disk to the Virtual Machine for Assurance and Automation backups. Note: Physical Disk option is only supported for single node Virtual Machines.

Network File System (NFS) Cisco DNA Center creates the backup files and posts them to a remote server. Each backup is uniquely stored using the UUID as the directory name. For information about the remote server requirements, see Backup Server Requirements listed in the Administrator Guide. [Backup Server Requirements](#)

Physical Disk NFS [View](#) | [Add](#)

Mount Path*

mks-managed-bdc9abf9-59a6-4d8e-ba69-b70284d31a04

▼ ⓘ ↻

Encryption passphrase*

.....

[SHOW](#)

Encryption passphrase not available

Backup Retention (in number of backups)*

14

[Info](#)

[Submit](#)

- d) バックアップのセキュリティが重要なコンポーネント（証明書やログイン情報など）の暗号化に使用するパスワードを入力します。

重要 このパスワードを忘れないようにしてください。後続の手順でパスワードを入力する必要があり、パスワードを忘れた場合は作成対象のバックアップを復元することはできません。

- e) バックアップファイルが削除されるまでの保持期間を設定します。
f) [Submit] をクリックします。`

ステップ 3 バックアップを復元するには、次の手順を実行します。

- a) ESXi 上の Cisco DNA Center メニューから [System] > [Backup & Restore] を選択します。

Cisco DNA Center System / Backup & Restore

Backup & Restore ② As of: May 25, 2023 10:27 PM Create Backup Now

NUMBER OF BACKUPS			DISK USAGE ①		FOR NEXT 7 DAYS	
1	0	0	122 GB	63 MB	0	0
Success	Failed	In progress	Available	Used	Backups	Estimated

Why do you manually trigger backup? Create a schedule

ALL INPROGRESS SUCCESS FAILURE

Search

Backup Name	File Size	Version	Status	Scope	Is Compatible	Created Date	Duration	Created By	Actions
EFT1backup		uber-dnac:3.660.75451 ①	Success	Cisco DNA Center (Without assurance data)	①	Thu May 25, 2023 09:08 PM	3m 26s		View Status Restore Delete

1 Records Show Records: 25 >

- b) [Backup & Restore] ウィンドウのテーブルでバックアップを見つけ、[Actions] 列の下にある省略記号をクリックして [Restore] を選択します。
- c) 前の手順で入力したものと同一暗号化パスフレーズを入力し、[Restore] をクリックします。

×

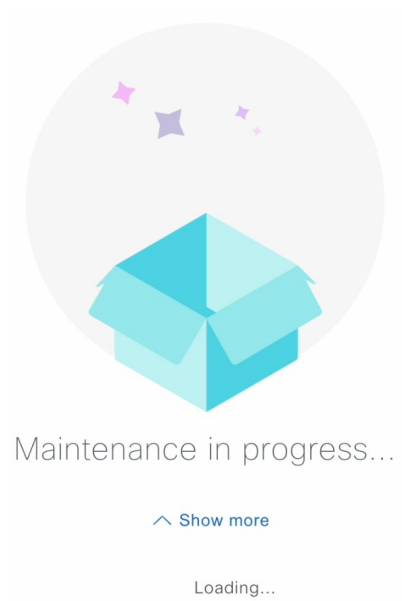
Restore Backup

Encryption passphrase*

.....

Cancel Restore

アプライアンスがメンテナンスモードになり、復元プロセスを開始します。



復元操作が完了すると、[Backup & Restore] ウィンドウのテーブルのステータスが [Success] に変更されます。

- d) 復元操作が完了したら、[Log In] をクリックして ESXi 上の Cisco DNA Center に再度ログインします。

Welcome back.

Log In

- e) 管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力して、[Login] をクリックします。

Username
admin1

Password
.....| SHOW

Login

障害が発生した仮想アプライアンスの NFS サーバーからのデータの復元

故障または障害が発生した仮想アプライアンスの NFS サーバーからデータを復元するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** 新しい仮想アプライアンスで、障害のある仮想アプライアンス用に設定した NFS サーバーを使用するように ESXi 上の Cisco DNA Center を設定するには、次の手順を実行します。
- ESXi 上の Cisco DNA Center メニューから、**[System] > [Settings] > [System Configuration] > [Backup Configuration]** の順に選択します。
 - [NFS]** ラジオボタンをクリックします。
 - [Mount Path]** ドロップダウンリストから NFS サーバーを選択します。

System / Settings

Settings / System Configuration

Backup Configuration

Physical Disk Cisco DNA Center Virtual Appliance provides an option to mount an external disk to the Virtual Machine for Assurance and Automation backups. Note: Physical Disk option is only supported for single node Virtual Machines.

Network File System (NFS) Cisco DNA Center creates the backup files and posts them to a remote server. Each backup is uniquely stored using the UUID as the directory name. For information about the remote server requirements, see Backup Server Requirements listed in the Administrator Guide. [Backup Server Requirements](#)

Physical Disk NFS [View](#) | [Add](#)

Mount Path*

nfs://nfs-729539cb-fc07-5d4b-9ab9-a7c87d8d261c

▼ ⓘ ↻

Encryption passphrase*

.....

[SHOW](#)

Encryption passphrase available

Backup Retention (in number of backups)*

14

[Info](#)

Submit

- バックアップのセキュリティが重要なコンポーネント（証明書やログイン情報など）の暗号化に使用するパスフレーズを入力します。

重要 このパスワードを忘れないようにしてください。後続の手順でパスワードを入力する必要があり、パスワードを忘れた場合は作成対象のバックアップを復元することはできません。

- e) バックアップファイルが削除されるまでの保持期間を設定します。
- f) [Submit] をクリックします。

ステップ 2 バックアップを復元するには、次の手順を実行します。

- a) ESXi 上の Cisco DNA Center メニューから [System] > [Backup & Restore] を選択します。

The screenshot displays the Cisco DNA Center Backup & Restore page. At the top, it shows the navigation path 'System / Backup & Restore'. Below this, there are summary statistics for backups and disk usage. A table lists the backup details, including the backup name 'EFT1backup', file size, version, status 'Success', scope, compatibility, created date, and duration. A context menu is open over the 'Actions' column, showing options for 'View Status', 'Restore', and 'Delete'.

- b) [Backup & Restore] ウィンドウのテーブルでバックアップを見つけ、[Actions] 列の下にある省略記号をクリックして [Restore] を選択します。
- c) 前の手順で入力したものと同一暗号化パスワードを入力し、[Restore] をクリックします。

The screenshot shows the 'Restore Backup' dialog box. It has a title bar with a close button (X). The main content area contains a label 'Encryption passphrase*' followed by a text input field containing a masked password '*****'. Below the input field are two buttons: 'Cancel' and 'Restore'.

アプライアンスがメンテナンスモードになり、復元プロセスを開始します。



Maintenance in progress...

[^ Show more](#)

Loading...

復元操作が完了すると、[Backup & Restore] ウィンドウのテーブルのステータスが [Success] に変更されます。

- d) 復元操作が完了したら、[Log In] をクリックして ESXi 上の Cisco DNA Center に再度ログインします。

Welcome back.

Log In

- e) 管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力して、[Login] をクリックします。

Username

admin1

Password

.....|

[SHOW](#)

Login

データのバックアップスケジュール

定期的なバックアップをスケジュールし、実行する曜日と時間を定義することができます。

始める前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- SUPER-ADMIN-ROLE 権限を持つユーザのみがこの手順を実行することができます。
- データバックアップサーバーが [NFS バックアップサーバーの要件 \(4 ページ\)](#) で説明されている要件を満たしている。
- バックアップサーバーが [Cisco DNA Center](#) で設定されている。詳細については、[バックアップファイルを保存する場所の設定 \(10 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして、**[System] > [Backup & Restore]** の順に選択します。
[Backup & Restore] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **[Create Schedule]** リンクをクリックします。

(注) 進行中のバックアップジョブがない場合にのみ、新しいバックアップをスケジュールできます。

ステップ 3 **[Create Schedule]** slide-in pane で、次の手順を実行します。

1. **[Backup Name]** フィールドで、バックアップの一意の名前を入力します。
2. スケジュールオプションを選択します。
 - **[Schedule Daily]** : バックアップジョブを毎日スケジュールするには、バックアップを実行する時刻を選択します。
 - **[Schedule Weekly]** : バックアップジョブを毎週スケジュールするには、バックアップを実行する曜日と時刻を選択します。
3. バックアップの範囲を定義します。
 - **[Cisco DNA Center (All data)]** : このオプションを使用すると、システム管理者は自動化、アシユアランス、システム固有のセットのバックアップを作成できます。
 - **[Cisco DNA Center (without Assurance data)]** : このオプションを使用すると、管理者は自動化およびシステム固有のセットのバックアップを作成できます。
4. **[Save]** をクリックします。

[Backup & Restore] ウィンドウには、バックアップがスケジュールされている日時を示すバナーメッセージが表示されます。

ステップ 4 (任意) バナーメッセージの末尾にある省略記号をクリックすると、次の操作を実行できます。

1. **[Edit]** をクリックすると、スケジュールを編集できます。
2. **[Upcoming Schedules]** をクリックすると、今後のスケジュールを変更できます。slide-in pane の **[Upcoming Schedules]** でスケジュールされた日時にバックアップを実行しない場合は、トグルボタンをクリックして特定のスケジュールを無効にします。
3. スケジュールを削除するには、**[Delete]** をクリックします。

ステップ 5 バックアップが開始されると、[Backup & Restore] ウィンドウにバックアップが表示されます。実行されたステップのリストを表示するには、[Actions] の下にある省略記号をクリックし、[View Status] を選択します。

[Status] 列でバックアップのステータスを確認することもできます。

ステップ 6 [Backup & Restore] ウィンドウで [In Progress]、[Success]、または [Failure] タブをクリックすると、バックアップのリストをステータスが [In Progress]、[Success]、または [Failure] のタスクのみをフィルタリングして表示できます。

バックアッププロセス中は、Cisco DNA Center によりバックアップデータベースおよびファイルが作成されます。バックアップファイルは指定された場所に保存されます。バックアップファイルは単一のセットに限らず、一意の名前で識別される複数のバックアップファイルを作成できます。プロセスが完了すると、バックアップジョブのステータスが [In Progress] から [Success] に変わります。

(注) バックアッププロセスが失敗しても、アプライアンスまたはそのデータベースへの影響はありません。バックアップの失敗の最も一般的な原因は、ディスク領域の不足です。バックアッププロセスが失敗した場合は、リモートサーバーに十分なディスク容量があるかどうかを確認し、別のバックアップを試行します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。